

(7)

オピニオン

(第3種郵便物認可)

2008年2月17日発行の米国医師会誌に一つの論文が掲載された。1922年にエジプト南部ルクソールの王墓が、英国の考古学者ハワード・カーターによって発掘されて以来の謎であった、ツタンカーメン王の死因が初めて明らかになったというのである。

エジプトの考古学研究国際チームは、約3500年前の古代エジプト王ツタンカーメン(新王国第18王朝、紀元前14世紀)を含む十数例のミイラの医学調査を行い、遺伝子解析、断層撮影によって、ツタンカーメン王の死因の一端が明らかになったと発表した。

論文によれば、アメンホテプ4世とその姉妹の間に生まれたツタンカーメンは、腐骨や内反足を患



やまもと たろう
山本 太郎

ツタンカーメンの謎

い、そのためしばしば転倒し足を骨折した可能性が高いこと、その上で、死因はマラリアだった可能性が高いというのである。

同時に調査された数体のミイラ

からは、口蓋(こうがい)裂、内反足、扁平(へんぺい)足も見つかった。ツタンカーメン王を含む4体のミイラからマラリア原虫の遺伝子痕跡が回収された。ツタンカーメン王は、無血管性骨壊死(えし)にも悩まされていた可能性が高いこともわかった。研究を報告した記者の一人は「全体的印象は、皇族の力と富が彼等を不健康と身体的障害を免れさせなかったというこ

とである【カイロ時事】と述べた。これには後日談がある。2010年に入って、ドイツのベルンハルト・ノッホ熱帯医学研究所の研究チームは、足の骨を詳細に調査

し、その結果、ツタンカーメン王から鎌状赤血球貧血症の痕跡を見つけたと、米国医師会誌オンライン版に発表した。鎌状赤血球貧血症は、マラリア高流行地における、遺伝疾患として知られているが、一方で鎌状になった赤血球がマラリア抵抗性を示すため、マラリアに対する遺伝的適応だったと考えられてもいる。

ツタンカーメン王が、鎌状赤血球貧血症で亡くなった可能性も否定できないが、研究者たちは真の死因を究明するためには、さらなる遺伝子鑑定が必要だと述べている。謎の解明には、もう少し時間が必要なようだ。こうした分野の研究を「古病理学」と呼ぶ。

(長崎大熱帯医学研究所教授)